

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：34604

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2015

課題番号：25300023

研究課題名(和文) アフマド・スィルヒンディーとムジャッディディーヤの調査研究

研究課題名(英文) Investigative Research on Ahmad Sirhindi and Mujaddidiyya

## 研究代表者

川本 正知 (KAWAMOTO, Masatomo)

奈良学園大学・ビジネス学部・教授

研究者番号：30192553

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：インドのアフマド・スィルヒンディー(1564&-1624)の思想とムジャッディディーヤと呼ばれた彼の後継者たちが率いた多くの教団は、イスラーム改革思想・改革運動として17世紀以降の各地域のイスラーム社会に大きな影響を与えた。本研究では、インド、トルコ、ウズベキスタン、中国北西部地域を訪ね、各地域に残されているスィルヒンディーの生涯と思想の研究に必須の一次資料を収集し、同時にそれらの地域に現在でも活動を続けるムジャッディディーヤの教団を調査し、それぞれの教団の宗教結社としての特徴と異なる地域におけるその教団の社会的存在形態を明らかにし、総合的なムジャッディディーヤ理解の研究基盤をつくった。

研究成果の概要(英文)：The ideas of the prominent Indian scholar Ahmad Sirhindi (1564-1624) and the activities of numerous religious groups led by his followers known as Mujaddidiyya have had a great influence on Islamic communities in various regions since the 17th century by providing foundations for Islamic revolutionary ideology and giving rise to Islamic revolutionary movements. Within the framework of this research, the author has visited India, Turkey, Uzbekistan and the north-western regions of China to collect extant local primary sources necessary for studying the life and thoughts of Ahmad Sirhindi and, at the same time, to conduct field research on the Mujaddidiyya groups still active in these regions, which led to clarifying each group's specific features as a religious organization and specific social forms they take in different localities, thus laying a general basis for studies aimed at a better understanding of the Mujaddidiyya.

研究分野：スーフィズムとスーフィー教団

キーワード：スーフィズム スーフィー教団 ナクシュバンディー教団 アフマド・スィルヒンディー ムジャッディディーヤ マウラーナー・ハーリド・バグダーディー ハーリディーヤ フェルガナ盆地

## 1. 研究開始当初の背景

スーフィズムとよばれる神秘主義思想が、宗教思想としてのイスラームの大きな部分を占めていたことは日本でもよく知られるようになったしかし、数多くのスーフィー教団が各地のイスラーム社会において重要な社会的役割を果たしてきたこと、現在でも多くのスーフィー教団が各地で活動していることはほとんど知られていない。なかでも、ナクシュバンディー教団 (Naqshbandīya) は分布が広大で、社会的影響力がきわめて大きなスーフィー教団として知られ、この教団は中央アジアのブハラのスーフィー、バハー・ウッディーン・ナクシュバンド (1318-1389) を名祖とし、16世紀以降に中央アジアから東トルキスタン、オスマン朝治下の諸地域、インドなどに広がったことが知られている。本研究では特にインドにおけるナクシュバンディー教団の指導者として活動し、「ヒジュラ暦 2 千年期の革新者 (Mujaddid-i alf-i thānī)」と呼ばれたインドのアフマド・スィルヒンディー (1564-1624) および彼の後継者たちによるナクシュバンディー教団の支教団ムジャッディディーヤに焦点を当てて調査・研究を行う。

ムジャッディディーヤは 17 世紀以降、インドから、故地の中央アジアを含むイスラーム文化圏各地に急速に広まり、18 世紀以降のナクシュバンディー教団の分派はほとんどがこのムジャッディディーヤとなった。イスラーム社会は中東を中心に展開していると考えられがちであるが、近現代に接続する中世後半に実際に大きな力を持ったのは、中央アジア発、あるいは南アジア発のこうしたスーフィー教団であったと認識することは、中世イスラームだけでなく、近現代イスラームを知るうえで不可欠である。

欧米では、1980 年代以降の社会史研究隆盛の流れの中で、ナクシュバンディー教団に注目が集まり、ムジャッディディーヤをふくむナクシュバンディー教団について今日まで多くの研究が蓄積されてきた。しかし、我が国では、ナクシュバンディー教団研究として、研究代表者川本による 15 世紀中央アジアのティムール朝下の中央アジアのイスラーム社会に大きな影響を与えたナクシュバンディー教団のシャイフ、ホージャ・アフラル (1404-1490) についての一連の歴史学的研究があるにすぎず、ムジャッディディーヤ研究では、研究分担者河原弥生の 18~19 世紀フェルガナ盆地へのムジャッディディーヤ伝搬を論じた「コーカンド・ハーン国期フェルガナ盆地におけるムジャッディディーヤの発展」『内陸アジア史研究』25 号 (2010 年) 31-54 頁があるのみで、まだ研究の端緒についたともいえない。我が国の研究の立ち遅れの理由は、ナクシュバンディー教団やムジャッディディーヤに対する認知度の低さ、および研究のための根本資料 (現実の教団調

査も含む) の蓄積が不足していることにある。

## 2. 研究の目的

「ヒジュラ暦 2 千年期の革新者」と呼ばれたインドのアフマド・スィルヒンディーおよび彼の後継者たちと彼の弟子たち・後継者たちの率いたムジャッディディーヤ (革新者たち) と総称される多くの教団は、イスラーム改革思想・改革運動として 17 世紀以降の各地域のイスラーム社会に大きな影響を与えたとされる。しかし、彼の思想もその教団の実態もほとんど解明されていない。本研究は、各地域に残されている、スィルヒンディーの生涯と思想の研究に必須の一次資料を収集すること、同時に広大な地域に現在も活動を続けるムジャッディディーヤ教団を調査し、さまざまな地域における教団の宗教結社としての特徴と社会的存在形態を明らかにすることを目的とし、文献調査と現地調査を併行して行うことによって、総合的なムジャッディディーヤ理解に向けた研究基盤を作ることを目指す。

## 3. 研究の方法

集団としてのスーフィー教団は信仰や教義などの宗教思想だけに依拠して存在するわけでも、単に国家と個人の間の中間集団として存在しているわけでもない。こうしたスーフィー教団を調査・研究するには分野横断的な手法が不可欠であり、本研究では、歴史研究と思想研究、文献研究とフィールドワークを組み合わせ、総合的な視点から様々な現象・事象を眺めることができるように配慮した調査方法をとった。

本研究が対象とするムジャッディディーヤは文化や歴史が異なる広範な諸地域に広がるため、できるだけ多くの地域を参照し、比較検討ができるよう、A.中国西北部・B.旧ソヴィエト連邦中央アジア・C.インド・D.トルコを調査する四班を編成して、年度中の夏期休暇 (8,9 月) または春期休暇 (2,3 月) を利用して現地調査および資料収集を行った。

## 4. 研究成果

本研究申請時の計画では、各地域それぞれ 3 年間にわたって調査を行うとしていたが、交付予定の補助金・助成金の総額によって各地域調査を 3 年間の間に同一地域 2 度以上の調査を行うと変更した。しかし、最終的に同じ地域に 2 度の調査が行われたのは B.旧ソヴィエト連邦中央アジアのフェルガナ盆地調査 (平成 26 年 9 月、平成 27 年 9 月) だけであり、上記 4 つの地域とイギリスにおいて 7 回の調査を行い、国内で 7 回の調査報告を行った。また平成 25 年度にはラホールでの学会において当科研究のポスターセッションを出した。

平成 25 年度中に、海外研究協力者予定であったウルムチ新疆大学のバフティヤール・イスマーイール博士から、当時の日中関係の悪化によって日本人による新疆ウイグル自治区の調査は難しいとの連絡があり、この地域の調査は A 中国北西部地域の調査から削除された。

また、平成 26 年 7 月にシリア、イラクにまたがる「イスラム国」が出現したことによる治安の悪化により D トルコ調査として平成 27 年度に行うことが予定されていたトルコ南部クルド人地域における調査は断念せざるを得なくなった。それに代えて 27 年 8 月にイラン・イスラム共和国のクルディスタンにおいて調査を行った。

#### 1.平成 25 年度の調査と成果報告

平成 25 年 8 月 12 日～9 月 1 日、研究代表者川本と研究分担者今松が、トルコ共和国のイスタンブール大学図書館、スレイマニエ図書館で写本調査を行い、ハーリディーヤ関係写本を収集し、その間 8 月 23 日～25 日はアドゥヤマンのメンジル教団、8 月 27 日～29 日は北キプロスのレフケのハッカーニー教団の本部を訪ね教団長たちにインタビューを行った。

9 月 3 日～21 日、川本と研究協力者二宮文子（京都大学）、小倉智史（京都大学）が、ブリティッシュ・ライブラリーにてアフマド・スィルヒンディー関係の写本、石刻本の調査・収集を行った。

以上のトルコとロンドンでの調査については、12 月 13 日京都大学人文科学研究所の共同研究班「イスラムの東・中華の西-前近代ユーラシアにおける文化 交流の諸相」において、川本が「生きているナクシュバンディー教団をたずねて アドゥヤマン、キプロス、ロンドン」と題して調査報告を行った。

11 月 1 日～4 日ラホールにておこなわれた学会 NHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference 2013 に、川本と小倉が参加し、ポスターセッション「A Preliminary Study in the Unity and Diversity of the Naqshbandiyya-Mujaddidiyya: the Cases of Central Asia and South Asia」を出した。

平成 26 年 2 月 25 日から 27 日間、川本、二宮、小倉が、インド共和国のデリー、ランプル、アリーガルその他の北インド諸都市を訪れ、アフマド・スィルヒンディー関係の写本、石刻本の調査・収集および現存するムジャッディディーヤ系の教団の調査を行った。

このインド調査については、川本と小倉が平成 26 年 4 月 25 日京都大学人文科学研究所の共同研究班「イスラムの東・中華の西-前近代ユーラシアにおける文化 交流の諸相」において、「生きているナクシュバンディー教団をたずねて(2): 北インド諸都市の教団とアフマド・スィルヒンディーの墓廟」と題して調査報告を行った。

#### 2.平成 26 年度の調査と成果報告

平成 26 年 6 月 28 日、研究代表者川本が東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所で行われた「2014 年度海外学術調査フォーラム」に参加し、中央アジアおよび中東地域での海外調査研究を行っている内外の研究者と情報交換を行った。

平成 26 年 8 月 1 日から 21 日にかけて、研究代表者川本、分担者東長、中西、研究協力者黒岩高(武蔵大学)の 4 人が中国北西部地域の調査をおこない、蘭州、臨夏、循化、銀川、呉忠、同心、固原を訪ね、多数のスーフィー教団を調査した。循化のムジャッディディーヤ系の教団においてその系統を示す文書資料(文書 5,写本 2)を発見するなど当初予想していた以上の大きな成果をあげることができた。

この中国北西部地域調査については、11 月 28 日に京都大学人文科学研究所の共同研究班「イスラムの東・中華の西-前近代ユーラシアにおける文化 交流の諸相」において、分担者中西竜也によって「スーフィズムの「中国的」諸相: ムジャッディディーヤ科研中国北西部地域調査報告」と題して調査報告が行われ、翌年 3 月 28 日に KKR 江ノ島ニュー向洋での日本中央アジア学会年次大会においても川本、中西、黒岩による同じ題名での調査報告が行われた。

平成 26 年 9 月 1 日から 26 日にかけて、研究代表者川本、分担者河原がウズベキスタン共和国、トゥルクメニスタン共和国での調査を行った。9 月 3 日から 8 日まで研究協力者塩谷哲史(筑波大学)および現地研究協力者の案内によってホラズム地方の聖者廟の調査を行った。9 日から 18 日まではウズベキスタン共和国のフェルガナ盆地のフェルガナ市を基地として、コーカンド、マルギラン、アンディジャン、ナマンガンの市内および周辺部のムジャッディディーヤ系といわれるスーフィー聖者廟および残存する教団の調査をおこなった。このフェルガナ盆地での調査には研究協力者として新免康(中央大学)、植田暁(東京大学)が参加した。

フェルガナの調査に関しては 11 月 14 日に京都大学人文科学研究所の共同研究班「イスラムの東・中華の西-前近代ユーラシアにおける文化交流の諸相」において、分担者河原弥生によって「19-20 世紀フェルガナ盆地におけるムジャッディディーヤ: ムジャッディディーヤ科研ウズベキスタン調査報告」と題して調査報告が行われた。

#### 3.平成 27 年度の調査と成果報告

研究代表者川本が、平成 27 年度 8 月イラン調査、9 月ウズベキスタン調査に関する国内及び国外の情報を得るために、平成 27 年 6 月 27 日(土)東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所において行われた海外学術調査フォーラムに参加した。

平成 27 年 8 月 1 日～26 日、研究代表者川本、研究協力者清水直美(テヘラン大学)、研

究協力者杉山雅樹(京都大学)の3人がナクシュバンディー教団関係の文献調査・収集およびムジャッディディーヤ教団の実地調査のためにイラン・イスラム共和国のテヘランおよびクルディスタン諸都市(サナンダジ、マーリバーン、マハーバード)のクルド人イスラム教徒コミュニティを訪問した。

この調査の報告は、川本および杉山によって、平成27年11月27日(金)京都大学人文科学研究所研究班研究会「イスラムの東・中華の西・前近代ユーラシアにおける文化交流の諸相」において「クルディスタン・ムジャッディディーヤ調査報告」と題して行われた。

平成27年9月1日~26日、研究代表者川本、研究協力者和崎聖日(中部大学)の2人がナクシュバンディー教団関係の文献調査・収集およびムジャッディディーヤ系教団の実地調査のためにウズベキスタン共和国のタシュケントおよびフェルガナ盆地のナマンガンのイスラム教徒コミュニティを訪問した。

この調査の報告は、川本、和崎、研究分担者河原によって平成28年3月28日(月)KKR江ノ島ニュー向洋での日本中央アジア学会年次大会においての「フェルガナ盆地のムジャッディディーヤ：ムジャッディディーヤ科研ウズベキスタン調査報告」と題して行われた。

## 5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

本調査研究に直接関係するもののみ  
〔雑誌論文〕(計1件)

Kawahara, Yayoi, "The Development of the Naqshbandiyya-Mujaddidiyya in the Ferghana Valley During the 19th and Early 20th Centuries," *Journal of the History of Sufism*, 6, 2015: 139-186

〔学会発表〕(計8件)

(1) 川本正知「生きているナクシュバンディー教団をたずねて アドゥヤマン、キプロス、ロンドン」京都大学人文科学研究所の共同研究班「イスラムの東・中華の西・前近代ユーラシアにおける文化交流の諸相」平成25年12月13日

(2) 川本正知, 小倉智史「ポスターセッション A Preliminary Study in the Unity and Diversity of the Naqshbandiyya-Mujaddidiyya: the Cases of Central Asia and South Asia, NHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference 2013, Lahore University of Management Sciences, 2013年11月02日~2013年11月04日

(3) 川本正知, 小倉智史「生きているナクシュバンディー教団をたずねて(2): 北インド諸都市の教団とアフマド・スィルヒンディーの墓廟」京都大学人文科学研究所の共同研究

班「イスラムの東・中華の西・前近代ユーラシアにおける文化交流の諸相」平成26年4月25日

(4) 河原弥生「19-20世紀フェルガナ盆地におけるムジャッディディーヤ：ムジャッディディーヤ科研ウズベキスタン調査報告」京都大学人文科学研究所共同研究班「イスラムの東・中華の西・前近代ユーラシアにおける文化交流の諸相」平成26年11月14日

(5) 中西竜也「スーフィズムの「中国的」諸相：ムジャッディディーヤ科研中国北西部地域調査報告」京都大学人文科学研究所共同研究班「イスラムの東・中華の西・前近代ユーラシアにおける文化交流の諸相」平成26年11月28日

(6) 川本正知, 中西竜也, 黒岩高「スーフィズムの「中国的」諸相：ムジャッディディーヤ科研中国北西部地域調査報告」日本中央アジア学会年次大会(KKR 江ノ島ニュー向洋),平成27年3月28日

(7) 川本正知, 杉山雅樹「クルディスタン・ムジャッディディーヤ調査報告」京都大学人文科学研究所研究班「イスラムの東・中華の西・前近代ユーラシアにおける文化交流の諸相」平成27年11月27日

(8) 川本正知, 河原弥生, 和崎聖日「フェルガナ盆地のムジャッディディーヤ：ムジャッディディーヤ科研ウズベキスタン調査報告」日本中央アジア学会年次大会, KKR 江ノ島ニュー向洋,平成28年3月28日

〔図書〕(計1件)

東長靖, 今松泰『イスラーム神秘思想の輝き 愛と知の探求 (イスラームを知る)』山川出版社,平成28年:112

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

川本 正知 (KAWAMOTO, Masatomo)  
奈良学園大学・ビジネス学部・教授  
研究者番号: 30192553

### (2) 研究分担者

河原 弥生 (KAWAHARA, Yayoi)  
東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・研究員  
研究者番号: 90533951

### (3) 研究分担者

矢島 洋一 (YAJIMA, Yoichi)  
奈良女子大学・人文科学系・准教授  
研究者番号: 60410990

### (4) 研究分担者

中西 竜也 (NAKANISHI, Tatsuya)  
京都大学・白眉センター・特定助教  
研究者番号: 40636784

### (5) 研究分担者

東長 泰 (TONAGA, Yasushi)  
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究  
科・教授  
研究者番号：70217462

(6)研究分担者

今松 泰 (IMAMATSU, Yasushi)  
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究  
科・客員准教授  
研究者番号：80598938

(7)研究分担者

真下 裕之 (MASHITA, Hiroyuki)  
神戸大学・人文学研究科・准教授  
研究者番号：70303899